

熱き絆を胸に

訓練で鍛えた技を競う

市内の全11分団が一同に会し、日頃の訓練の成果を披露する御前崎市消防団査閲大会がマリノパーク御前崎を会場に開催されました。

査閲大会とは、消防ポンプの基本操作を習得し、放水までの速さや動作の正確さ、指揮命令による動作の正確さなどを競う大会です。

ポンプ車操法の部と小型ポンプ操法の部、そして行進などの動作を行う訓練礼式の部の3部門で熱き絆を胸に訓練の成果を競い合います。

この日のために訓練を重ねた各分団の選手たちは、その成果を発揮しようと競技を繰り広げました。

「火点は前方の標的、水利はポンプ車右側後方防火水槽、手びろめによる二重巻きホース、一線延長乗車！」指揮者の掛け声に選手たちは日頃の訓練で体に叩き込まれた技術

が自然と体を動かし一糸乱れぬ連携を見せる。

松林団長は常々、「大会のための訓練は必要ない、常に災害現場を意識し、いかに現場で正確な操作ができるかが大切だ」と団員に指導しています。まさに大会会場は現場さながら、選手たちの鬼気迫る操作に、周りで応援する市民や消防団OBの声にも力がこもります。競技終了の「われ」の号令により、これまでの重圧から開放され、選手たちに達成感と安堵感が一気に押し寄せる。健闘をたたえ選手たちに贈られる拍手がなによりも心地よい。

01 吸管伸長は3・4番の連携がものを言う。

02 「一秒でも早く」力の限り歩を進める。03

選手の緊張感が最高潮に達する開始前。04

放水中はこの基本注水姿勢で耐えなければ

ならない。05 消防車両全23台が並ぶ様は壮

観です。06 「集まれ！」この一步をそろえる

ために何度も練習を重ねる。

SPIRITS・FIRE MAN SPIRITS

